



# つばさっ子

2015年

10月号



## 今月の行事



3日(土)	9:00~11:00	きりんぐみ懇談会
16日(金)	10:00~	誕生日会
17日(土)	9:00~11:00	運動会(4・5歳児)
24日(土)	9:00~11:00	ぞうぐみ懇談会(試食会)
31日(土)	9:00~11:00	ひよこぐみ懇談会

10月22日(木)は全体職員会議です。早めのお迎え・家庭保育のご協力  
よろしくをお願いします。

### (事務室からのお知らせ)

つばさ共同保育園では、災害時や緊急の連絡事項については電子メールを活用した緊急連絡システム「Eメッセージ」を採用しています。

入園・転園時に全家庭に案内しておりますが、未登録の方、メールアドレスが変わっている方も再登録が必要になります。未登録の方や登録方法の用紙をなくした方は事務室までお声かけください。  
※避難訓練時にテスト送信することがあります。ご了承ください。

## お月見会フォト(9/26)

みんなの食べるおだんごを持って来てくれた  
うさぎとたぬき↓

58家庭217名が参加してくれました。

劇団スーパームーンによる劇  
「おつきさまってどんなあじ？」

南中ソーランを披露した5歳児(下写真)↓



## 秋の夜長を楽しんでいただけませんか？

仲嶺 真弓

9月26日(土) 18:00~19:20 お月見会をしました。

参加家庭は、129 家庭中 58 家庭、

大人 96 名 子ども 111 名 (つばさ園児=85 小学生=26 名) 総計 217 名の参加者でした。

今回で3回目となるお月見会です。第1回の天候は土砂降りの雨の中での開催で、月が見えないお月見会でした。それでも保護者の感想は「家族以外の人と夕食することなんてないので良い機会だった。」「来年もしてほしい。」という声が多く聞かれました。園としても中庭から見える月を楽しめるつばさ園舎ならではのこの行事を続けていきたいと思いました。第2回目は晴天で見事な真ん丸お月様が見守る中でのお月見会でした。癒るメンのお父さんたちの協力で“イクメンジャー”も登場し、紙芝居の出し物などで会場を盛り上げてくれました。そして、3回目となる今年は曇り。週初めの天気予報では台風接近の影響で雨になる確率が多いと聞き、お泊り保育に引き続き行事が続行できるかどうかの判断を迫られることになるかもと心配していましたが、雨にはならずによかったです。夜空は雲に覆われたままでしたが、ぞう組さんの「南中ソーラン」のパワーが届いたのか、ほんの一瞬お月様が顔を見せてくれ感動的でした。

今年のお月見会の軽食メニューは、〔・栗おにぎり ・きぬかつぎ ・お月見団子 〕

「丸い物を供えるのはこれからの収穫を祈る」 「丸い物を食べて健康と幸せを得る」 そんな思いを込めて栄養士の村井を中心に実行委員が決めました。当日は7名のお母さんが丸め作業を手伝ってくれ、優しく丁寧にひとつひとつを丸めてくれました。駐車場は混乱しないように、4名のお父さんが警備にあたってくれたので無事にお月見会を終えることができました。力を貸して下さいありがとうございました。

つばさ職員一座(?)“劇団 スーパームーン”の出し物や、司会の“月ガールズ”はいかがだったでしょうか? どの職員がどんな役割をしたかの説明はあえて書きませんが、どの職員も日頃の誕生日会などで培ったパフォーマンス力を発揮できたのではないかと私は思っています。手作り感満載の出し物でしたが、子どもたちが吸い寄せられるように舞台をみつめている姿が印象的でした。

お月見会が終了し解散後は、参加したすべての人が、近隣の方の迷惑にならないようにとできるだけ静かに速やかに帰っていただけたことに感謝の思いでいます。些細なことですが、職員はもちろんのこと、保護者一人ひとりの小さな気遣いがこの地で保育園を存続していくためにはとても大切な意味をもつと思うからです。

つばさ共同保育園を立ち上げるときの保育園紹介新聞では、アトム0B保護者が新聞のゴールデンスペースにこんな言葉を書いてくれました。

**「いつも子どもたちをあたたかく見守っていただいております。」**

何気ない言葉ですが、心をほっこり温かくしてくれ、私自身いまだに忘れられずにいます。この気持ちを忘れてはいけないといつも心に留めています。このつばさが丘地域が、子どもたちの卒園後も安心して過ごせる地域であってほしい。そんな願いがあります。温かくさりげない言葉が自然にやりとりできるような地域であってほしいと強く思います。その小さな積み重ねがやがては子どもたちが安心して過ごせる環境作りに繋がっていきます。物騒な事件が多いここ最近の世の中だからこそ、そういう心持ちで地域と関わって行きたいとより一層思います。大人ができる地域作りの第一歩として保護者も心に留めていただけたらこれ以上心強いものはないと思っていますので、行事やクラスのレクリエーションの時など思い出していただければありがたいです。

## 半年を振り返る中間総括会議を行いました

仲嶺 真弓

9月13日（日）に中間総括会議を行いました。

つばさ・アトム共に、毎月の職員会議は各園で行っていますが、総括会議（9月と2月の年2回）はアトム共同福祉会職員（つばさ・アトムは姉妹園なので2園合同）で、半年を振り返る4時間の総括会議を行っています。今回は理事も参加し、総勢57名で9時から13時まで会議を行いました。

以下の内容で協議しました。

### <中間総括 スケジュール>

9：00～10：00

「ワークライフバランスについて」

0・1歳児、2・3歳児、4・5歳児、給食室・夜間、事務室のグループに分かれ、各自の半年間の働き方をそれぞれに振り返り、他者の意見を聞いて後半更に効率よい働き方を目指す。

会議の内容や進め方などの充実を目指し、何をプラスすればいいかを考えあう。

10：00～13：00

「想像してみよう 1分間スピーチ」

それぞれの職種の立場になったの“しんどさ”を想像し、当てられた者が一分間でスピーチ。実際はどうか？を当人が1分間でスピーチし、他者理解を深めました。

保育士の立場、給食室の立場、事務室の立場等、実際にどんな大変さがあるかは、毎日働く中で、分かっているつもりでも、実際、具体的にどんな事が大変で、何がしんどいか？を聞くと、改めて改善出来る事は何か？仲間として協力できる事は何か？を職員一人ひとりが考える時間となりました。

今回の中間総括会議も、保育の振り返りはもちろんのこと、自分自身と向き合い、働き方を振り返り、他者の意見を聞きながら様々な角度から物事を考え、後半にどう繋げていくかをそれぞれの職員が立ち止まり考える貴重な会議となりました。



市原理事長司会は久々



法人の理事たちも中間総括を見守ります

昨年度の2月広島大学の先生と学生たちがつばさに来ました。日本の保育の中でも特徴的な見守る保育の奥深さについて研究されている方々で、アメリカの全米乳幼児教育学会というシンポジウムでアトム「見守る保育」について発表された報告に来られたのです（2015年3月号つばさ参照）。

今回はそのうちの大学院の学生の一人が保育士を目指しており、ぜひ現場に出る前につばさで直に体験したいという申し出のメールがあり、広島から9/14～16の3日間ボランティアに来ていました。以下は彼からつばさを体験しての感想を書いてくれましたので紹介します。

## タイトル：つばさ共同保育園の「普通」から、私が学んだこと

### 1. はじめに

みなさん、こんにちは。広島大学院生の濱名 潔<sup>はまなきよし</sup>（園ではキヨ君と呼ばれていました）です。大学院では幼児教育の勉強、研究をしております。今回、志賀さんから「なあ、良かったら、ボランティアの感想書いてみーへんか？」という素敵なチャンスを受けたので、すごく温かく、楽しく、そして考えさせられたボランティア3日間（9月14日～16日）の感想を書かせてもらいます。以下、長文になりますが、お付き合いください。

### 2. つばさ共同保育園でのボランティアをお願いした理由

園の感想について述べる前に、まず、私がつばさ共同保育園でのボランティアをお願いした理由について説明します。現在、私は大学院生をしておりますが、長年、先生をやりたかったという夢をあきらめきれず、来年からは保育士として働こうと考えております。だから「働く前に、一度つばさ共同保育園の子ども同士のトラブル解決場面での保育士さんのかかわりを実際に見て、考えてみたい」と思い、今回ボランティアさせていただきました。なぜ、そのように思ったかということ、以前、つばさ共同保育園でのインタビューの帰りに見た、5歳の女の子同士のケンカの場面がとても印象的だったからです。それは、女の子が自分の意見を伝えた後、相手が意見を言うのをにらみながらずっと待っているという場面でした。私は園見学やアルバイトを通して、これまで様々な園の保育を見てきました。しかし、そのような場面で、子どもが相手の考えも尊重し意見を言うまで待つという光景は一度も見たことがありませんでした。いろいろな園で、理念としては「個を尊重する保育」が掲げられていますが、実際にそれができている園は多くないと思います。でも、つばさ共同保育園では、子ども同士で、相手が意見を言うまで待っていました。私はこれを見て、子どもがこれができるようになるかかわり方ってどんななんやろ？と不思議に思っていました。今年の4月に「来年は保育士として働こう！」と考えた時、一度自分の幼少期を振り返りました。そして、私は思いました。あの頃の自分のような、何でも先生に頼ってしまう子や自分でどうするかを決められない子、大人には「嫌や」と言えない子に育てたくない…。こうした経緯があり、今回つばさ共同保育園にボランティアをお願いさせていただきました。

### 3. つばさ共同保育園では、なんでこれが「普通」なん？

つばさ共同保育園でボランティアさせてもらった3日間には、多くの驚きと感動がありました。そんな中でも、特に驚きだったのは、私や（たぶん）他の園では、特別と感ぜられる出来事が、つばさ共同保育園の先生や保護者の方々が「普通」と感じていることでした。その一例として、初日のキリン組の女の子同士のトラブルがあげられます。初日の給食前の園庭で、私は女の子二人で三輪車をめぐったケンカ場面を見ました。数分、「貸して欲しい」「嫌や、使ったばかりやもん」というやり取りが繰り返されました。そして、女の子（はとうとう三輪車を貸してもらえず、志賀ちゃんに「〇〇が、貸してくれへんねん。」と言いに行きました。志賀ちゃんは「そうか」と話を聞き、「困っているねんな」と気持ちを言語化してあげていました。そして、女の子は志賀ちゃんに、自分が三輪車を貸すように言って欲しいと頼みました。すると、志賀ちゃんは「使いたいのはわかるけど、志賀ちゃんは三輪車欲しくない。」と言いました。そして、「後ろから、見てあげるから言っておいで。」と言って、自分たちで解決するように促しました。そこからは、女の子同士が自分の思い、感情を思い切りぶつけて話し合っていました。結局、その子は三輪車を借りることはできなかったのですが、それを見ていた男の子が貸してあげました。そこで、志賀ちゃんは、すかさず「〇〇（男の子の名前）一、えら一、優しいな一。」「良かったな。〇〇（女の子の名前）」「〇〇（貸してあげなかった女の子）見てみ、〇〇（自転車を貸してあげた男の子の名前）、優しいな一」と言いました。私は、先生が自分は自分、相手は相手として接しながら、子ども同士のトラブルを解決するための声かけと内容にとっても驚きました。

そして、先生方やお母さんに、その出来事がとても印象的であったとお伝えしました。すると、つばさ共同保育園の先生やお母さんたちは、みんな口をそろえて「あ～、うんうん。以外と普通のことやろ」って言うのでした。私は内心、「それを普通って言えるのはすごいな～」と思い、また「なんで、これが普通なんやろ？」とも思いました。でも3日間、つばさ共同保育園でボランティアさせてもらうに当たり、自分なりになんとなく次のようなことかなと考えました。



#### 4 なぜ、そのようなかわりができるのか？

まず、大人が子どもをあまり「子ども」として見ていないことかなと思いました。つまり、保育士の方々が「先生」という立場だけで子どもに接していないということです。これも、つばさ共同保育園だと当たり前かもしれませんが、いろんな保育所、幼稚園では「教える者」の立場が前面に出て、子どもと接する園も少なくないと思います。しかし、つばさ共同保育園ではそのようなことは無く、先生が子どもに冗談を言って、子どもが「何でやねん。もうええ加減にしてや」というような場面もよく見られました。つまり、普段関わっていない部外者の私からすると、大人と子どもが「教える」—「教えられる」という一方的ではなく、対等な立場で子どもと大人が生活されていると思いました。それは、保護者—保育者の関係においてもそう見えました。

そして、それが成り立つ背景には、先生同士の関係においても個人を大事にするスタンスがあるのではないかと思います。私は、たまたまボランティア1日目に、先生たちの話し合いの様子を少し聞かせてもらうことができました。先生たちの間でも「私は〇〇やと思ってん。だから、そんなんやったら、どうなるんやろとか不安に思って…」「そうやって、思ってんな…。でも、あれ、そういう意味じゃなくて、こういう意味やってん」という話がされていました。それは、みんなが、よりすごしやすく生きるため、また、そのために個人—個人の考えていることを理解できるように話し合っているようでした。そして、その時の聞き方は、子ども同士のトラブルに保育士がかかわる場面とそれほど変わらないように感じました。つばさ共同保育園の実践は、先生の特別な援助というテクニックで成り立つものではなく、つばさ共同保育園の人たちの持つ姿勢があるからこそできることなんだと思いました。そう考えると、つばさ共同保育園のいろんな人たちが「大人として」「教師として」一方的に過剰に、子どものトラブルに関わって行かないのもわかる気がします。いろんな園を観察していて、大人でも、あんな介入されたら「俺らの問題じゃ、いらんことすんなや」と逆に第3者と喧嘩になり、話がややこしくなるやろなと思う保育士のかかわる場面は沢山あります。そうならないのは、やはり、つばさ共同保育園ではお題目ではなく、実際にみんながそれぞれ個人を尊重できているからだと思いました。

#### 5 おわりに

つばさ共同保育園のみなさんが「普通やろ」と言っていたことは、残念ながら、私は「普通」ではなくなってきたと思います。少なくとも自分のことを振り返った時、その「普通」は出来ていないと思います。どうしても、個と個で向き合わず、役割の中でしか関わることができなくなっている部分も多々あります。自分が保育者になった時に、3日間のボランティアを通してつばさ共同保育園で学んだことがどこまでできるかはわかりません。でも、つばさ共同保育園で学んだように、子どもの前だけ特別なかわり方をするのではなく、どの人に対しても、そのようなかわり方が「普通」にできないといけないのだと思います。そのことを胸に刻んで、今後、資格を取り、そして保育の道に進めればと思います。もっとその他にも色々感じたことがあったのですが、ページの関係で書ききれませんでした。すごく残念です。

最後になりましたが、ボランティアを受け入れてくれた、つばさ共同保育園の子どもたち、保護者の皆様、先生方、家に泊めてくれた谷やん、事務の一森さん、そして、仲嶺園長先生、とても素敵で貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございました。

きりん組に3日間保育に入った浜名さんがとても印象深いことを言いました。

「大学で論文などを書いていると、最後は必ず結論だてた答えが必要であるが、実際の保育の現場の中での大人同士の関係も子ども同士の関係も答えなんてないんだという事をここで学びました」というようなことを言っていました。彼が言った答えとは何か？結論とはどのようなものなのか？大学での保育の研究されている中で実際どのような研究がされているのか知ってみたいくなりました。

志賀教子



キヨくんのとなりに座りたいと子どもたちが隣の席を取り合う場面もありました(笑)

15日の宿泊場所に困り、回りまわって、アトム谷野保育士の自宅に泊まった濱名くん。谷野保育士と泉佐野の焼肉バイキング「左近」へ行き、教育談義に花を咲かせていたそうです。常に子どもと楽しむことを忘れず、すてきな保育士になってほしいです。3日間お疲れ様でした。

事務室 一森